

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 インヴァスト証券株式会社

コード番号 8709 URL <http://www.invast.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 川路 猛

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員

(氏名) 田村 信司

TEL 03-3595-0423

四半期報告書提出予定日 平成27年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		純営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	2,343	△29.1	2,343	△29.1	△308	—	△284	—	333	△91.0
26年3月期第3四半期	3,304	—	3,303	—	317	—	389	—	3,702	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 △324百万円 (—%) 26年3月期第3四半期 2,603百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	57.31	56.49
26年3月期第3四半期	604.56	594.95

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	91,687	—	11,734	—	—	12.8
26年3月期	97,515	—	13,239	—	—	13.6

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 11,732百万円 26年3月期 13,213百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	195.00	195.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成27年3月期の期末日における配当予想額は、現時点において未定です。

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

当社の主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり、業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期3Q	5,904,400 株	26年3月期	6,411,400 株
27年3月期3Q	36,500 株	26年3月期	575,800 株
27年3月期3Q	5,818,623 株	26年3月期3Q	6,123,733 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成27年3月期の期末日における配当予想額は現時点において未定であり、今後の業績等を勘案し見通しが立った時点で開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、依然として力強い回復力に乏しく、回復速度も緩慢なものになりました。

12月8日に発表となった日本の7月—9月の実質GDP(確定値)は、-1.9%と、4月—6月の-1.8%に続き、2四半期連続のマイナス成長となりました。消費増税による駆け込み需要の反動や物価上昇に伴う購買力の低下により個人消費の低迷が長引いており、これが成長率を押し下げています。

しかし、一方では、円安や原油安が企業の収益力の拡大にゆっくと寄与し始めていることに加え、海外の債権・債務から生じる第一次所得収支は、7月—9月で過去最高を更新し、今後も増加することが期待されるなど、我が国経済が徐々に回復する兆しも随所に表れ始めています。

内需では、GDP下落の大きな要因となった個人消費に持ち直しの兆しが見え始めていることや、企業の設備投資の意欲も依然として旺盛であることから、内需の回復とともに景気は底堅さを取り戻すことが期待されています。

このような環境のなか、外国為替市場のドル円相場は、10月初旬こそ世界経済の減速懸念やエボラ出血熱の拡大などにより軟調となる局面があったものの、10月31日の日銀金融政策決定会合で、黒田日銀総裁がサプライズとなる追加金融緩和を発表すると円安基調が再度強まりました。

ドル円相場は12月初旬には、2007年7月以来、約7年半ぶりに120円台に乗せました。

株式市場は、追加金融緩和の発表以降、上げ足を速め12月8日には7年4カ月ぶりに日経平均は18,000円台を回復する場面もありました。

このような経済状況のもとで、当社グループの当第3四半期連結累計期間の営業収益は23億43百万円(前年同四半期比70.9%)、純営業収益は23億43百万円(同70.9%)となりました。

また、当第3四半期連結累計期間において、当社が保有する投資有価証券の一部売却を行ったことにより、10億51百万円の投資有価証券売却益を特別利益として計上しております。

こうして、販売費・一般管理費は全体で26億52百万円(同88.8%)、純営業収益から販売費・一般管理費を差し引いた営業損失は3億8百万円(前年同四半期は3億17百万円の営業利益)、経常損失は2億84百万円(前年同四半期は3億89百万円の経常利益)、四半期純利益は3億33百万円(前年同四半期比9.0%)となりました。

なお、当社単体での営業損失は94百万円(前年同四半期は5億3百万円の営業利益)、経常損失は59百万円(前年同四半期は5億80百万円の経常利益)、四半期純利益は5億58百万円(前年同四半期比14.4%)となりました。

セグメントの業績概況は次のとおりであります。各セグメントにおける純営業収益は、取引所清算手数料等の取引関係費と相殺表示しております。詳細は、「注記事項(セグメント情報等)」をご参照ください。

セグメント名称		事業の内容	会社
報告 セグメント	取引所F X取引	「くりっく365」	インヴァスト証券㈱
	店頭F X取引	「F X24」、「シストレ24」、 「トライオートF X」	インヴァスト証券㈱
	海外金融事業	店頭F X、店頭C F D、証券取引	Invast Financial Services Pty Ltd.
その他		「くりっく株365」	インヴァスト証券㈱

① 取引所F X取引

取引所F X取引は、東京金融取引所におけるF X取引サービス「くりっく365」の提供を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、前半は市況の変動が乏しく、売買を手控える動きがみられたこと等により、前年と比べ出来高が減少したものの、秋以降は円安相場を受け為替相場は活況を取り戻し、出来高も増加しました。

こうして、取引所F X取引による純営業収益は7億41百万円(前年同四半期比84.6%)となり、セグメント利益は1億44百万円(同54.9%)となりました。

② 店頭F X取引

店頭F X取引は、「F X24」、「シストレ24」及び「トライオートF X」の提供を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、昨年3月からの新サービス「トライオートF X」の総口座数がサービス開始後、約2ヶ月半で1万件を突破し、9月には1万5千件となったほか、F X自動売買サービス「シストレ24」についても、7月に総口座数が7万件を突破いたしました。

秋以降には急速な円安進行を機に、ドル円を中心として取引が活発化したものの、前半の膠着した市況の影響を受け、前年同四半期と比較して出来高が大幅に伸び悩む結果となりました。

こうして、店頭F X取引(F X24・シストレ24・トライオートF X)による純営業収益は12億12百万円(前年同四半期比56.6%)となり、セグメント損失は2億38百万円(前年同四半期は2億29百万円のセグメント利益)となりました。

③ 海外金融事業

海外金融事業においては、オーストラリアの子会社Invast Financial Services Pty Ltd.(以下「IFS」といいます。)が店頭F X取引、店頭C F D取引及び証券取引を行っております。

2013年2月に設立したIFSの決算日は12月31日となっているため、連結決算への数値の反映は発生から3ヶ月後となります。そのため、当第3四半期連結累計期間においては、IFSの2014年1月から9月までの実績を反映しております。

IFSは、世界的に支持する投資家が多いMT4システムとプロの投資家に人気があるcTraderを中心とした店頭F X取引を提供しているほか、店頭C F D取引として、MT4のシステムを通じたメタルや株価指数などのサービスを提供しております。

IFSは2013年7月下旬より営業を開始しておりますが、現在の顧客層は、オーストラリア以外にも、シンガポール、中国、マレーシア、イギリス等、多岐に渡ります。

こうして、海外金融事業の純営業収益は1億82百万円(前年同四半期は純営業収益4百万円)となりましたが、事業基盤の拡大に必要な先行投資としての販売費・一般管理費を計上した結果、セグメント損失は2億18百万円(前年同四半期は1億85百万円のセグメント損失)となりました。

④ その他

その他の事業「くりっく株365」による純営業収益は24百万円(前年同四半期比58.5%)となり、セグメント利益は3百万円(同34.8%)となりました。

主要な収益・費用等の状況は次のとおりであります。

① 受入手数料

当第3四半期連結累計期間の受入手数料の合計は5億87百万円(前年同四半期比52.8%)となりました。

内訳は以下のとおりであります。

・委託手数料	29百万円(同58.4%)
・取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	5億32百万円(同54.4%)
・投資顧問料	23百万円(同29.9%)
・その他の受入手数料	0百万円(同32.8%)

② トレーディング損益

当第3四半期連結累計期間におけるトレーディング損益は、13億98百万円(前年同四半期比66.8%)の利益となりました。これは店頭F X取引等によるものであります。

③ 金融収支

当第3四半期連結累計期間における金融収益は、16百万円(前年同四半期比183.8%)となりました。

主な発生要因は預金利息によるものであります。

④ 販売費・一般管理費

当第3四半期連結累計期間における販売費・一般管理費は、26億52百万円（前年同四半期比88.8%）となりました。主な内訳は以下のとおりであります。

・取引関係費	7億89百万円（同70.0%）
・人件費	6億39百万円（同104.5%）
・不動産関係費	7億91百万円（同93.5%）
・事務費	19百万円（同88.8%）
・減価償却費	3億33百万円（同115.9%）
・租税公課	43百万円（同84.7%）
・その他	34百万円（同94.8%）

⑤ 営業外収益

当第3四半期連結累計期間においては29百万円の営業外収益を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・受取配当金	25百万円
・為替差益	1百万円
・その他	2百万円

⑥ 営業外費用

当第3四半期連結累計期間においては5百万円の営業外費用を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・自己株式取得費用	0百万円
・株式公開費用	2百万円
・その他	2百万円

⑦ 特別利益

当第3四半期連結累計期間においては10億70百万円の特別利益を計上しており、その主な内訳は以下のとおりであります。

・投資有価証券売却益	10億51百万円
・金融商品取引責任準備金戻入	19百万円

⑧ 特別損失

当第3四半期連結累計期間においては48百万円の特別損失を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・固定資産処分損	24百万円
・投資有価証券売却損	20百万円
・その他	3百万円

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末と比較して58億27百万円減少し916億87百万円となりました。この内、流動資産は46億30百万円減少し897億87百万円となりました。

流動資産の主な減少項目は、外為取引未収入金の減少12億81百万円のほか、預託金が10億43百万円、短期差入保証金が15億82百万円それぞれ減少しております。

これらは、受入保証金の減少による区分管理信託所要額の減少及び取引所への短期差入保証金の減少等によるもののほか、カウンターパーティへの短期差入保証金の余剰分を圧縮したことによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末と比較して11億96百万円減少し18億99百万円となりました。

固定資産の主な減少項目は、上場株式の売却により、投資有価証券が10億96百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は799億53百万円となり前連結会計年度末と比較して43億22百万円減少しました。この内、流動負債は40億19百万円減少し796億98百万円となりました。

流動負債の主な減少項目は、受入保証金の減少22億45百万円、外為取引未払金の減少10億35百万円、法人税等の納付による未払法人税等の減少3億11百万円であります。

固定負債は主に繰延税金負債が3億18百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ2億82百万円減少し2億26百万円となりました。

特別法上の準備金においては、金融商品取引責任準備金の洗い替えによる戻入を行ったことにより19百万円減少し、29百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は117億34百万円となり、前連結会計年度末と比較して15億5百万円減少しました。

主な減少項目は配当金の支払い等により利益剰余金が10億9百万円減少したことに加え、投資有価証券の評価差額金の減少により、その他の包括利益累計額が6億57百万円減少したことでありました。

この結果、自己資本比率は12.8%（前連結会計年度末は13.6%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	2,540	2,302
預託金	17,226	16,182
顧客分別金信託	3,005	3,005
顧客区分管理信託	13,634	13,141
その他の預託金	587	36
短期差入保証金	65,706	64,124
外為取引未収入金	8,287	7,006
繰延税金資産	183	30
その他	473	141
貸倒引当金	△0	△0
流動資産計	94,418	89,787
固定資産		
有形固定資産	189	204
無形固定資産	911	789
投資その他の資産	1,995	905
投資有価証券	1,733	636
その他	262	269
貸倒引当金	△0	△0
固定資産計	3,096	1,899
資産合計	97,515	91,687
負債の部		
流動負債		
トレーディング商品	-	0
受入保証金	75,395	73,149
外為取引未払金	7,203	6,168
未払法人税等	359	48
役員賞与引当金	42	-
賞与引当金	54	14
その他	662	316
流動負債計	83,717	79,698
固定負債		
繰延税金負債	335	16
その他	174	210
固定負債計	509	226
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	48	29
特別法上の準備金計	48	29
負債合計	84,275	79,953

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,965	5,965
資本剰余金	2,806	2,313
利益剰余金	4,474	3,465
自己株式	△722	△44
株主資本合計	12,523	11,700
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	702	47
為替換算調整勘定	△12	△15
その他の包括利益累計額合計	689	32
新株予約権	26	1
純資産合計	13,239	11,734
負債・純資産合計	97,515	91,687

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業収益		
受入手数料	1,112	587
委託手数料	50	29
取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	979	532
投資顧問料	80	23
その他の受入手数料	2	0
トレーディング損益	2,094	1,398
金融収益	9	16
その他の営業収益	88	340
営業収益計	3,304	2,343
金融費用	1	-
純営業収益	3,303	2,343
販売費・一般管理費		
取引関係費	1,128	789
人件費	611	639
不動産関係費	846	791
事務費	21	19
減価償却費	288	333
租税公課	51	43
その他	36	34
販売費・一般管理費計	2,985	2,652
営業利益又は営業損失(△)	317	△308
営業外収益		
受取配当金	64	25
為替差益	-	1
その他	14	2
営業外収益計	78	29
営業外費用		
自己株式取得費用	1	0
為替差損	2	-
株式公開費用	1	2
その他	1	2
営業外費用計	7	5
経常利益又は経常損失(△)	389	△284
特別利益		
投資有価証券売却益	3,680	1,051
金融商品取引責任準備金戻入	23	19
特別利益計	3,704	1,070
特別損失		
固定資産処分損	44	24
投資有価証券売却損	-	20
その他	-	3
特別損失計	44	48
税金等調整前四半期純利益	4,049	737

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
法人税、住民税及び事業税	347	208
法人税等調整額	△0	195
法人税等合計	347	404
少数株主損益調整前四半期純利益	3,702	333
四半期純利益	3,702	333

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,702	333
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,083	△654
為替換算調整勘定	△14	△2
その他の包括利益合計	△1,098	△657
四半期包括利益	2,603	△324
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,603	△324

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、平成25年12月13日開催の取締役会決議及び平成26年3月7日開催の取締役会決議(取得枠の拡大決議)に基づき、自己株式31,700株の取得を行いました。

続いて、当社は、平成26年7月30日開催の取締役会決議に基づき、自己株式28,000株の取得を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が63百万円増加しております。

(自己株式の消却)

当社は、平成26年7月30日開催の取締役会決議に基づき、平成26年8月15日付で、自己株式507,000株の消却を実施いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が491百万円、利益剰余金が138百万円、自己株式が629百万円減少しております。

(自己株式の処分)

当第3四半期累計期間において、新株予約権の行使により自己株式92,000株の処分を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が112百万円減少し、資本剰余金が1百万円、利益剰余金が82百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	取引所F X取引	店頭F X取引	海外金融事業	計				
純営業収益	876	2,140	4	3,021	42	3,064	239	3,303
セグメント利益 又は損失(△)	263	229	△185	308	9	317	—	317

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、差金決済取引(証券CFD・商品CFD)事業、取引所株価指数証拠金取引(くりっく株365)事業を含んでおります。

2. 純営業収益の調整額239百万円は報告セグメント事業における取引関係費(取引所清算手数料等)であり、それぞれのセグメントの純営業収益は当該調整額と相殺しております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書上の営業利益又は損失と一致しておりますので、調整額を計上していません。したがって、セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益又は損失を表しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	取引所F X取引	店頭F X取引	海外金融事業	計				
純営業収益	741	1,212	182	2,136	24	2,160	182	2,343
セグメント利益 又は損失(△)	144	△238	△218	△312	3	△308	—	△308

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、取引所株価指数証拠金取引(くりっく株365)事業を含んでおります。

2. 純営業収益の調整額182百万円は報告セグメント事業における取引関係費(取引所清算手数料等)であり、それぞれのセグメントの純営業収益は当該調整額と相殺しております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書上の営業利益又は損失と一致しておりますので、調整額を計上していません。したがって、セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益又は損失を表しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。